

[001]アジア総合政策センター紀要表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/13307>

出版情報：九州大学アジア総合政策センター紀要. 1, 2006-06-30. 九州大学アジア総合政策センター
バージョン：
権利関係：

巻頭言

柳原 正治

(九州大学理事・副学長・アジア総合政策センター委員会委員長)

近年来、中国を中心とするアジア諸国・地域の発展には目を見張るものがあり、その成長と発展のいぶきは、われわれ日本人の生活の隅々まで伝わっています。と同時に、アジアの人々との交流は、ビジネスや学術・文化、あるいは大衆レベルに至るまで様々な分野で活発化しており、「アジア」が以前にも増して、より身近なものになって来ているのが現実であります。

九州は歴史的にも地理的にも中国、韓国、東南アジア等アジアの諸国・地域との深い関わりがあり、地政学的にアジアへのゲートウェーとなる重要な地点であります。その中であって九州大学は創設以来、アジアからの多くの留学生を受け入れ、アジアと日本との交流に少なからざる役割を果たしてまいりました。一例のみを挙げれば、現代中国の著名な小説家・政治家の郭沫若氏は、1918年に九州帝大医学部に入学し、福岡の地で学んだのち新中国建設に大きな力を発揮したことで知られています。

九州大学はその国際戦略において、「歴史的・地理的必然が導くアジア指向」と「世界的知の拠点形成」を掲げており、アジアとの連携を一層強化する方針を取っています。そうした中で、九州大学アジア総合政策センターは2005年7月1日に、アジア総合研究センター (KUARO) を発展的に改組する形で、誕生いたしました。その主要な目的は、現代のアジアを総合的に捉え、行政・企業・市民社会に有益な政策提言のできる情報発信拠点としての役割を果たすことにあります。いいかえますと、九州大学がこれまで築いた知的・人的資源を活用し、さらに、今回新たに着任した特任教授や専任教員の経験と、九大のこれまでの教員 (複担教員、協力教員) との協力による相乗効果で、あたらしい「社会に開かれた」「提案型の」センターとして機能することを目指しています。

走り始めたばかりのアジア総合政策センターですが、今後とも皆様の一層のご支援を賜り、期待にお応えする活動ができるように全力を尽くしたいと考えています。

2006年初夏
